

平成 25 年度 生駒市行政改革推進委員会
第 3 回第 1 作業部会 会議録

開催日時 平成 25 年 8 月 22 日（木） 午前 10 時～正午
開催場所 生駒市役所 4 階 403・404 会議室

出席者

（委 員） 松山部会長、藤堂委員、岡本委員、楠委員
（担当課） 古里経済振興課課長補佐、山方商工観光係長
（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、牧井企画政策課主事、石村企画政策課係員

1 開会

2 案件

(1) 補助金等の個別検証

《8 商工会議所補助金》

【担当課から補助金についての説明】

（岡 本 委 員） 生駒市の商工会議所は奈良市よりも規模が小さいにも関わらず、補助金額が奈良市よりも多いのはなぜか。

（担 当 課） 奈良市は、商工会議所補助金という名目の補助金は 600 万円であるが、この補助金以外にも産業振興に関する補助金が支出されているため、一概に生駒市の方が、補助金額が多いとは言えない。

（松山部会長） 他市も、県の補助金額の 3 分の 1 以内と規定しているのか。

（担 当 課） 近隣では、「市長が必要と認める額」という表現をしている市が多い。

（松山部会長） 前回の見直しの際、「事業補助に移行すべき」という提言が出されているが、それに対する見直しはしていないということか。

（担 当 課） 小規模事業者支援促進法において、中小企業に対する相談事業、指導事業等の経営改善に必要な基礎事業を行うにあたり、都道府県に補助することができるかと規定されている。市町村においては法律上、特に規定はないが、中小・零細企業の相談を受けるためには、プロの相談員が必要であり、経費がかかるため、商工会議所に対する補助を続けている。

（岡 本 委 員） 経営指導員と経営支援員の業務はどう違うのか。

（担 当 課） 経営指導員は巡回や相談等、直接事業者と接する業務を担っている。経営支援員は有資格者が従事している。業務に関しては重複する部分

が多いと思う。

- (岡本委員) 経営指導員は県の自治体職員が担っているのか。
- (担当課) 商工会議所の職員である。
- (岡本委員) 「経営指導員の指導等」の項目を見ると、計 1,182 件の巡回指導と窓口指導を行っている。計算すると 1 日あたり 3.2 件程度しか指導を行っていないことになる。この業務を行うのに、支援員 3 名と指導員 3 名も必要なのか。
- (担当課) 巡回指導や窓口指導のみが経営指導員の業務ではない。実態としてはフル稼働している。バルや百円商店街等の行事開催にも主体的に関わってもらっている。
- (岡本委員) 支出を見ていると、掛かっている経費のほとんどが人件費で、事業費はほとんどないのではないか。
- (担当課) はい。相談業務等が主な業務なので、人件費がほとんどである。
- (岡本委員) 商工会議所の会員のみが相談等のサービスを受けることができるのか。
- (担当課) 会員でなくても相談を受けることはできる。商工会議所は地域経済団体なので、会員でなくても相談を受けることができる。
- (岡本委員) 平成 24 年 4 月 11 日に実施している税務相談は出席者が 1 人となっている。
- (担当課) 会員数が減ってきているので、商工会議所の活動を通じて会員数を増やしていくことは必要だと感じている。
- (岡本委員) 違った方法で中小企業を支援した方が良いのではないか。例えば生駒駅南の商店街の活性化に資金を使うなど、効果が目に見えるような補助のあり方にすべきである。
- (松山部会長) 今後の見通しを教えてほしい。いつもでもこのまま補助するのか。
- (担当課) 補助金の額について、県の補助金額の 3 分の 1 以内という具体的な数字を出している自治体はあまりない。今後、ますます地域の中での商工会議所の役割は増していくと思うので、この補助金は今後も必要であると考えている。
- (松山部会長) 経理記帳や税務相談等については、事業者自身の負担で税理士等に頼むべきである。こういったことではなく、IT や事業承継等の専門的な内容の相談業務に補助金を使ってほしい。商工会議所が必要だと考える事業を提示してもらい、その中から生駒市が本当に必要だと思う事業に対して補助をしてはどうか。
- (岡本委員) 「県要綱において対象事業が限定されているとの理由から、現状が維持されている」と記載している。本来であれば、特定の事業に対し

て補助をするという形が良いのだが、この補助金の交付額は下げて、他の事業にお金を使った方が良いのではないか。

(担当課) 事業費補助となると、補助金算定の中に人件費が含まれていないことが多々ある。ある程度人数がいないと商工会議所自体の活動が成り立たないので、事業費補助にするのであれば、その中に人件費を含める必要がある。様々な事業をしてもらっており、そういった事業に対して人件費補助を上乗せしている訳でもない。大きな役割を果たしてもらっている。

(松山部会長) 事業をする上で、事業を管理するための費用は必要であり、必要な人件費は補助して良いと思う。

(岡本委員) 事業を指定して補助することはできないのか。

(担当課) 相談業務等については、ある程度継続して人を雇う必要があるため、事業費補助よりも、現状の方法が望ましいと考えている。

(岡本委員) もっとメリハリをつけた方が良い。今のままでは効果が薄い。税務相談等を受けるにしても、もっと多くの人に来てくれるようなものにしてほしい。

(楠委員) 金額が少ないので、大々的な事業に取り組むことができていない気がする。生駒市の商工業や観光をもっと盛り上げるためにも、会員とアイデアを出し合って、資金が必要なら別途補助するといった方法を採用の方が前向きな動きが出てくるのではないか。今の方法では、当初の目的に対する成果が出ていないと思う。

(担当課) 今年3月実施したバルや百円商店街、まちゼミ等様々な事業に、中心となって実施してくれている。商工会議所の活動がきちんとアピールできていないとは思いますが、様々な活動をしてきている。

(岡本委員) この補助金の目的は中小企業の経営基盤の強化であるので、その目的が達成できているのかを検証すべき。

(藤堂委員) 「多様な企業ニーズを的確に把握している」と記載しているが、経営指導員はどういった方法でニーズを把握しているのか。生駒市の中小企業にはどういったニーズがあり、それに対してどのように対処しているのか等を報告する必要があるのではないか。

(岡本委員) 使い道を絶えず検証し、効果が表れているのか検証すべきである。

(松山部会長) 生駒駅の北側は再開発しているが、南側はどんどん寂れている。南側の活性化に力をいれるなど検討してはどうか。そういった意見は、本来であれば商工会議所から出されるべきである。

(岡本委員) 商工会議所のメンバーは会費を払っているのか。

(担当課) はい。法人であれば年額2万円以上、個人であれば年額1万2千円

以上である。

- (岡本委員) 税務相談等については会費で賄ってもらい、補助金は市民にも効果が及ぶようなものに使ってほしい。
- (松山部会長) 以上の議論を踏まえて、総合評価は「見直し」としたい。
- (岡本委員) 補助要綱の終期が来年の3月末なので、そこで見直してほしい。
- (松山部会長) 事業費補助に移行すべきである。市民全体に利益が及ぶような形の補助金にしてほしい。総合評価に対して何か意見はないか。
- (担当課) 商工会議所と協議したいと思う。商工会議所も意識改革をして、積極的に事業に取り組もうとしている。そういったことも踏まえて検討していきたい。
- (岡本委員) 市内で働く人を支援することは大事だと思うが、今の補助金では効果が薄いので、もっと有効に使ってほしい。
- (担当課) シャッター街を減らすには、事業者同士が直接顔を合わせて信頼関係を作らなければならない。信用を基に事業が展開されるので、市としてもバックアップする必要があると思っている。
- (藤堂委員) 郊外の大型店舗に客がとられ、昔ながらの店舗では客が減り、閉店に追い込まれているという課題がある。その責任は市民にもある。市は、地元の商店で買い物をするよう、市民に呼びかけてほしい。高齢化が進み、「買い物難民」という言葉も生まれている昨今、気がついたら近所にお店がないということにならないように、市民の意識を変える必要がある。自治会等とも連携して考えてほしい。
- (松山部会長) 小規模事業者のニーズを把握して、3年以内に一定の成果が出るように見直してほしい。

《9～11 特産品振興補助金（茶釜・編針・茶道具）、12 伝統的工芸品育成補助金》

【担当課から補助金についての説明】

- (岡本委員) 茶釜は生駒市の伝統的産業なので、もっと知名度が高まるよう、力を入れてほしい。具体的な事業に対して、補助をしてはどうか。例えば生駒の駅前に茶室を設けて観光客にアピールする等、効果が目に見えるような補助の方法にすべきではないか。
- (松山部会長) 現状の決算書では、交付した補助金が何に使われているのかが分からない。
- (楠委員) 竹あかりのタベは、この補助金を使って実施している訳ではないのか。
- (担当課) 竹あかりのタベは生駒市が主催しており、組合の方々には竹の造形物を作っていただいているので、それに対して謝礼を別途支出してい

- る。
- (藤堂委員) イベントに掛かる経費は市が負担しているのか。
- (担当課) ろうそく代や器材のレンタル代等については、市が負担している。
- (藤堂委員) 当日の手伝いはボランティアでもらっているのか。
- (担当課) はい。
- (楠委員) 奈良県らしい良いイベントであると思っている。20万円や50万円の補助では、何かの事業の一部にしかならないのではないか。せっかくの伝統的工芸品なので、もっとPRしてはどうか。例えば駅前北口にできる再開発ビルに茶釜をPRする場を設ける等すれば、もっと広めることができるのではないか。組合側からそういった要望はないのか。
- (担当課) 今年は実行委員会形式で、地元が主体となって実施してもらう予定である。
- (楠委員) ここ数年イベントの規模が小さくなっている気がするのだが。
- (担当課) コンサートが中止になった。
- (藤堂委員) 大楽茶や学校教育事業等、市民が関わる何らかの事業に対する補助に切り替えることはできないのか。
- (松山部会長) 後継者は増えているのか。
- (担当課) 茶釜に関しては組合員数が少し減っている。
- (岡本委員) 茶釜を作る作業は夜中にすると聞いた。大変な作業なので、何かインセンティブがなければ、後を継ぐという意欲が減り、衰退してしまうのではないか。
- (楠委員) 生駒市の数少ない特産品を守るためにも、インセンティブを与えて後継者を増やす取組をしてほしい。市がもう少し手を差し伸べれば、組合からも要望等が出てくるのではないか。それをバックアップしてあげるような体制にしてはどうか。
- (担当課) 来年の春に200人募集して、茶釜感謝祭を開催する。それ以外にもイベントを開催しており、茶釜組合も努力はしている。市は、イベントを広報に掲載したり、開催場所として高山竹林園を貸したりといった支援をしている。
- (楠委員) 市民の1割ぐらいが参加できるイベントにしてほしい。継続して実施しなければ広まらない。
- (松山部会長) 組合でも様々なアイデアを持っていると思うので、議論してみたい。
- (岡本委員) 茶釜組合と異なり、編針工業協同組合は9名、茶道具同業組合は5名しか構成員がいないので、3つの組織を統合してはどうか。組織の

- 人数を増やした方が、活動が活発化するのではないか。
- (担当課) 3組合それぞれの立場があるので、統合は難しいと思う。
- (松山部会長) 市内産の編針のシェアはどの程度なのか。
- (担当課) 手元に資料がないので、分からない。
- (藤堂委員) プラスチックの編針が普及しているのに、竹の編針はあまり売れていないのではないか。
- (担当課) 今は編針だけでなく、他の工芸品も作っている。
- (松山部会長) 18年度の提言に繰越金の多い団体が見られるとあるが、現状はどのようなのか。
- (担当課) 一番多くて、編針工業協同組合の30万円であり、どこの団体も繰越金はそれほど多くない。
- (岡本委員) 編針工業協同組合は568,000円が研修費として支出されている。何に使っているのか。
- (担当課) 遠方に製品を販売に行く際の交通費等に使っていると聞いている。
- (松山部会長) 販売促進費ではないか。
- (藤堂委員) そうであるなら、研修費という書き方は修正すべきではないか。
- (松山部会長) 編針は継承すべきものなのか。
- (担当課) 先日テレビで紹介されていた。
- (藤堂委員) 編針の他に、着物を洗う時に使う伸子も作られているとのこと。着物を着る人が減っているのに、伸子の利用者は減っているとは思いますが、完全になくなってしまうと困るのではないか。
- (岡本委員) 編針の出荷額はいくらぐらいなのか。
- (担当課) 分からない。
- (藤堂委員) 竹を使った他の工芸品を作っているという話を聞くが、それにはこの補助金を使っていないのか。そういった活動に対して補助をしてはどうか。
- (担当課) 今後、そういった相談が来た際には、市も検討するつもりではいるが、現時点では国からの支援を受けるべく活動されている。
- (松山部会長) 平成9年度に全ての補助金が創設されている。何か事情があったのか。
- (事務局) それ以前も同様の補助金はあったが、要綱がなかったり整理されていなかったりしたものを、平成9年度に整理・統合した。
- (岡本委員) 特定の事業に対する補助にすべきである。例えば駅前北口の再開発ビルで茶釜を普及する場を設けるなど、具体的な事業を行い、それに対して補助をしてほしい。
- (藤堂委員) 同様の意見である。本当に必要な事業であるなら、補助金額を増額

しても良いと思う。

(楠 委 員) 補助金を交付するからには、効果をはっきり出してほしい。一度廃止にした上で、本当に必要な事業のアイデアを組合から出してもらい、その事業に対して補助をするという形にしても良いと思う。その結果、金額を増やしても構わない。

(松山部会長) 総合評価は見直しとし、事業費補助に移行すべきである。補助そのものを否定するつもりはないが、このままの補助の形を続けることは望ましくない。

また、茶筌生産協同組合に対して、2つの補助金が交付されているが、統合することはできないのか。

(担 当 課) 検討の必要はある。

(藤 堂 委 員) 組合員数にバラつきがあるにも関わらず、3組合に一律20万円ずつを交付していることに違和感がある。事業費補助に移行することが前提だが、3組合に対する補助金を一律にする必要はないと思う。

(松山部会長) 特に茶筌は後継者育成やPR等、力を入れて組合と議論してほしい。

(2) 前回審査結果の内容確認（事務局案の内容を確認）

《13 中小企業債務保証料補給金》

(岡 本 委 員) 「また本制度よりも～減少傾向にある状況も踏まえ」とあるが、何を想定して記載しているのか。

(担 当 課) セーフティネット保証制度が創設され、そちらに利用者が流れたため、本制度の利用者が減っているという話が担当課からあった。

(藤 堂 委 員) 「本制度よりも」という表現は分かりにくいのではないか。

(松山部会長) 「また、経営に支障が生じている事業者向けの他の保証制度を利用し～」としてはどうか。

(各 委 員) 了承

《15 人権教育研究会補助金》

(岡 本 委 員) 3点目について、「～補助金ではなく直接経費を負担するなど、より効果的な～」としてはどうか。

(各 委 員) 了承

《21 花と緑のわがまちづくり助成制度補助金》

(岡 本 委 員) みどりの基金のあり方についても再検討すべきという話がヒアリングの中であったので、その点についても記載すべきではないか。

(藤 堂 委 員) みどりの基金は別の事業にも使われているのか。

(担 当 課) はい。保護樹林・保護樹木制度等にも使っている。
(松山部会長) 4点目を「終期となる H29 年度以降の支援のあり方を検討し、みどりの基金の活用も含めて、自立的・自主的な～」と修正してはどうか。
(各 委 員) 了承

《27 消防団員互助会補助金》

(松山部会長) 補助金の使途は明確になっていると思うので、3点目について、「～補助金の使途の明確な開示を図ることが～」としてはどうか。
(各 委 員) 了承
(岡 本 委 員) 3点目の文章が分かりにくい。
(松山部会長) 事務の効率性という話があったので、そのような趣旨の内容に変更をお願いしたい。
(各 委 員) 了承

3 閉会

【決定事項】

・各補助金に対する検証結果一覧の事務局案を提示し、次回会議において総合評価及びコメントを決定する。